

1. 評価結果概要表

作成日 2007年7月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1270500752
法人名	社会福祉法人穩寿会
事業所名	グループホームかえて
所在地	千葉県千葉市緑区高田町1084-2 (電話) 043-292-2673

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年7月19日	評価確定日	8月18日

【情報提供票より】(19年7月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 6人, 非常勤 12人, 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 180,000円	有りの場合 償却の有無	有(期間:退去時)	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月2日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	9 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.9 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	武村内科医院 千葉南病院
---------	--------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

最寄り駅は外房線誉田駅。古くから土地に住む農家と新興の団地が混在する、緑区高田町に位置している。広い敷地には同法人の特養、ケアハウス、地域包括支援センター等があり、提携の内科クリニックも至近で、法人理事長曰く「福祉村」を形作っている。ホームは2ユニット。広々と明るい室内で、入居者は自分のペースを大事にし、家事等の役割を持ちながら個々にいきいきと生活している。菜園や、車椅子でも手入れのできる花壇などもあり、皆で収穫した野菜が食卓にのぼる。見学者多数であるのが頷ける、安心感のあるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の外部評価で指摘された点について一つ一つ丁寧に見直しを図った。手拭タオルをペーパータオルに代える、マニュアル類の見直し、家族に毎月、手紙や写真を添えて暮らしの報告、献立表へのカロリー明示など、指摘された事はできる事から随時改善を行っている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>項目ごとに職員らが意見を出し合い、管理者がそれを取りまとめて作成をした。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は過去に3回開催。地域の自治会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、地域住民代表、入居者家族代表、入居者代表らで行われた。これまでに話し合われたのは、ホームの現況説明、イベントの紹介、外部評価結果の公表などである。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>重要事項説明書にホームおよび法人の苦情相談窓口、千葉県介護保険課、千葉県国民健康保険団体連合会介護保険課の電話番号が明示されている。面会を訪れる家族は口頭で職員に要望を伝えたりしているが、あまり面会に来ない家族に関しては、意見等の聴取が行われていない。家族会の結成についてはまだ検討中である。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会のさまざまな行事や町会運動会などに積極的に参加している。またホーム主催で、地域の子供会とともに年1回のバーベキューパーティを開いている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個々の役割を生きがいにつなげる支援をする」を理念としている。また、現在、より一層わかりやすい理念の再構築を検討しているところである。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者および職員は、理念を日々のケアの中に活かし、入居者個々の役割や生きがい作りに励んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会に入会し、行事参加や意見交換などを行っている。子供会を招いてホームでBBQパーティを行ったり、見学者を受入れたりもしている。現在、幼稚園・保育所・小学校等との交流も検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で指摘された事項については、できることから随時改善を進めている。自己評価表は、職員が出した意見をもとに、管理者が記入を行った。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで、過去3回開催している。地域の方々や入居者家族に、ホームの現況説明や行事案内をするとともに、ホームの入居者が一人で外に行ってしまった場合の連絡体制について話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には同法人が運営するあんしんケアセンター裕和園の職員が参加し、連携を持っているが、それ以外に千葉市介護保険課や高齢施設課と話し合う機会はあまり無い現状である。		より一層地域に密着したホームとなるため、市との協力体制や連携の有り方について、検討することが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人広報誌に写真や手紙を添えて、入居者の日々の暮らしを家族に定期報告している。金銭出納は、家族の希望に応じてコピーを送付したり、面会時に閲覧してもらったりしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームと法人および外部2カ所の相談窓口を、重要事項説明書に明記している。しかしながら、面会に来ない家族の意見聴取は進んでおらず、家族会の結成も見送られている現状である。		あまり面会に来ず、意見要望を出さない家族に対しても、何らかの意見聴取や話し合いの場作りをすることが必要と思われる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職や異動等で入れ替わる時は、新人が慣れるまで見習い期間を設けてリーダー職員が指導し、入居者の混乱がないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する外部研修や消防署の救命救急講習に、職員は順次参加している。また特養と合同で法人内部の勉強会も行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会に加入し、その緑区の集まりなどにも参加している。また主任職員が認知症の人を支援する専門職千葉連絡会のスタッフとして活動しており、同業者との意見交換は活発に行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居は行っていないが、まずは見学に来てもらったり、馴染みの家具や品を持ち込むなどの工夫をしている。また、入居したばかりの時は、家族に面会に来てもらうなどの協力もしてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は、料理、掃除、裁縫など、それぞれ得意分野に力を発揮し、職員と共に日々の暮らしを営んでいる。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートは入居者個々に作成されている。また、これまでのアセスメントシートでは足りない情報を加えた、新たな書式を検討しているところである。		アセスメントシートの新しい書式を完成し、より一層充実した入居者情報ができあがることが期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の思いや意向を聞き取ることはもとより、家族からも面会、電話、便り等で情報を得ながら、職員全員で話し合って介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月おきに見直し、6ヶ月おきに新たに作成している。必要があれば随時、計画の見直しを行う。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	過去に、入居者の個人的な遠出に付き添ったり、家族向けに認知症高齢者についての講演会を行ったことがある。同じ敷地内に同法人の特養や老健があるが、重度化しても、入居者が過ごしたい場所をなるべく尊重するようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームから歩いていける距離に同法人理事長が院長である武村内科医院があり、ほとんどの入居者がここをかかりつけにしている。ここ以外の病院に行く場合は、原則として家族に送迎をお願いしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームは認知症の緩和が第一の目的であるとの考えから、ターミナルケアは行わない方針である。入浴介助に職員3人が必要となった時点で、退居の検討を行っている。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげない言葉かけ、カーテン使用等気配りしている。記録類は目立たない決められた場所に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々のペースを尊重している。昼食時、ご飯をゆっくりと時間をかけて食べる入居者がいらしたが、せかしたりせず、さりげなく見守りながら自分のペースで召し上がってもらっていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理が得意な入居者は積極的に食事作りに参加し、入居者の希望をメニューに取り入れながら、職員ともども楽しく食卓を囲んでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日、午後1時から夕飯までの間で自由に入れる。就寝前の入浴の希望にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編み物、ドリル、パズル、野菜収穫、花壇の手入れ等、入居者個々の趣味を尊重している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの近くに商店があり、入居者がタバコ、仏壇の花、菓子、食材等の買い物にしばしば出かけている。ホームの敷地が広く、菜園等を作っているため、ホーム周辺の散歩はよく行っている。車で大型スーパーに出かけることもある。		
、					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。ユニットのドアには鈴をつけ、入居者が出入りしたらわかるようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回の避難訓練は火災対応のみである。近隣住民との協力体制はこれから進めていく予定である。		火事以外の災害別マニュアル、対応手順や役割分担の構築、および近隣住民との協力体制の整備が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者と職員とで食事メニューを作成した後、法人の栄養士が栄養バランスのチェックをしている。水分摂取にも気を配り、リビングでいつでもお茶が飲めるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2005年に千葉県優秀建築賞を受賞している建物。居室は全室南向き。廊下はガラス張りで明るく、中庭がよく見渡せる。畳スペースやソファなどが置かれ、居心地の良い空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者本人の馴染みの品や、家族が持ち込んだ品などが置かれ、温かみのある空間となっている。		